

## 政治を考え始める

30歳手前くらいから実家の山梨に帰ってくるのが多くなって、今では月に一度は帰ってきてい

父親の書齋は、昭和の成長期を一人の男がどう生きようとしていたのかをみせてくれる。”生きるぞ”という静かな主張が力強く聞こえてくる。今の僕には、あまりに力強いと感じて、読むのに気力が必要になるものばかりだけど。

33歳のうちに「認める」ことをテーマに文章を書いたが、34歳では政治を真面目に考えてみたいと思う。今まで避けてきた部分。考えても自分に何の利益も返ってこないし、個人でできることはないと思っているから。だからといってグループを作って運動を！なんていう情熱を燃やす気力はないけれど。無気力に生きてきたのかもしれない。誠実に一生懸命にという気持ちで歩いてきたつもりだが、社会に対しては無気力、いつも自分の周辺に対してだけ誠実であらうとしていた。見えないことを考えても体力を消費するだけ。

父親の書齋で過ごす時間に、若いころの父の意思が少し入ってきたのかもしれない。だから、この一年でもっと入れてやろうと思う。

34歳 政治を考えるために以下の本を読もうと思う。

父の書齋から

共産主義読本：日本共産党中央委員会

現代と思想 特集：現代の疎外：思想史・特集号

グラムシ・エッセイ選：グラムシ

『グラムシ研究』：グラムシ研究者

これからの「正義」の話をしよう：マイケル・サンデル

『日本人はなぜソ連が嫌いか』：志水速雄

『愛と自由』：西沢舜一

天皇をめぐる12章：南方紀洋

自分の選書

日本の思想：丸山眞男

自由からの逃走：フロム

責任と判断：ハンナ・アーレント

Extra Life：スティーブ・ジョンソン

日本文化私観：阿部公房

今年で80歳の父親、20歳の頃に初版となっている本もある。この本たちを通して、社会をどのような方向に向けたかったか、父がどの方向を向いていたのか。書き終わった後でも途中で父と話をしてみようとおもう。ただ父は耳が悪く補聴器も好きではないからタイミングを選ばない。

”人間は考えることが多すぎる”を書いている時も、書き終わっての編集もChatGPTと一緒にしていて、父の書齋から本を選べなかった時も相談した。相棒のように対話をしているので、選んだ時の文をそのまま載せてみようと思う。

そう、そうなんだ。父は小さい明かりを灯し続ける人。そして母はそれをサポートしてる。素晴らしい両親だと思う。

ただ、今の技術にはついてこようとしていない。もう鑑賞者になってる。次は僕らだね。

下の質問、今を生きる僕の目線で現代思想として考える。

\*なぜ人は思想を信じるのか

思想を信じているのか？という疑問がこの問いを見て問うてしまう。これは、メディアばかりを批判する態度を持ってしまっているからまず出る疑問なのだと思うけど。

思想を信じる僕がなぜ信じられるかは理想を持っているから。生活の中で、常に情報はアップデートされる、その上で自分の理想を持ち続けているし、日本の自然を日々見て、変わらない美しさを信じている。思想を持つ人はそういう、更新と変わらなさを認識できる人で、理想としての世界を大でも小でも持っているのだと思う。

\* なぜ誠実な人ほど、理想を必要とするのか

理想は灯りだから。進む道を照らしてもらいたい。誠実に一步一步歩くことができる人ほど、見えない道を進むことに恐怖を感じる。

僕は、暗闇でも一步一步歩けるようにいたい。

\* 日本の左翼はなぜ衰退したのか

政治に参加してもお金は増えない。長期ではなく今楽しみたい人の増加。祖先として生きるという思考の衰退でもあるのだと思う。

\* “正しさ”はなぜ人を分断するのか

正しさは人それぞれ違う。正しさは人間性を強く出す。それが反発すると分断は簡単に起こる。ただ、この認め合い対話ができれば、反対を向いてた意見が同じ向きまで修正できるかもしれない。

\* 戦後日本の希望とは何だったのか

これは予想でしかないけど、経済成長、経済復興、安定した生活なのだと思う。これからの未来を育てていくぞという意気込みを持つ人たち。今は、人生を楽しむぞと生きる人たち。後のことは次の世代がって考える思想は昔はなかったのかな。っても、まずは遊ぶために復興しないといけなかったわけだ。

\* 労働者にとって教養とは何だったのか

稼ぐための手段でもあり、生活の中で生まれた思想、理想を育てるための水であったのではないかな

父の書齋から灯りを見つけたように、祖先となる自分が、小さな灯りを点在させていけたらいいのだが。

政治を考える時、はじめに考えたこの答えに戻ってこようと思う。

灯となるのは、人の思考だろうか。今読んでいるハンナ・アレントの“責任と判断”で刺激的な言葉と出会った。

彼女は、公的なものに背を向ける流れの中にいるらしい。それは哲学や思考する人は思索者であり、その生き方は「隠れて生きよ」と戒められてきたから。”思考という営みそのものは、人間のその他の活動とは異なり、外から見分けられないという意味で、不可視な活動です。”まだ読み始めて20ページほど。これから、思考を外に出す場合の責任と判断を学ぶことが出来るのではないかと予想しているところなのだが、こっだけ読むと公的な場にいる政治家たちは思考をしているのか、代弁者となっているだけなのか。なんて、疑問をいま持っている。もちろん考えているはずだと思うけれど、哲学者のようなベルソナではないのかもしれない。統計家、リサーチャーのような立ち位置に近い気がする。今はまだそのように考えている。

政治を考える中で、君主国である日本の立憲に関してや、天皇の存在、経済成長期に置ける日本人の思考、昔から考えられている日本人の特性などがある側面から見て、現代と比較し、噛み砕いて将来はどのようになっていくのかを想像したい。そして、将来この文を読む奇異な人がいたら面白いと思う、その出会いが刺激となったらいいのだが。